



今年度の終わりが近づき、もうすぐ新しい年度が始まります。環境が大きく変わるタイミングです。これまでに身につけたことも、環境が変わると成長が後退するのでは…?とご心配されるかもしれませんが、大丈夫です。環境に慣れると、身につけてきた力を発揮できるようになります。園を尋ね新しい先生と会う機会に、お子さんの特性に対し大人がどのように関われば良いのか、どのように伝えるとお子さんは理解できるのか（例えば、長い言葉よりも単語や2語文ならOK、写真などの視覚提示が有効、身体に触れ注目してから話し始める）など、園や新しい担任に伝えましょう。

幼児発達支援室には多くの相談がよせられます。今回は「思い通りにならないとかんしゃくを起こす」という場面について、『療育の視点』で考える対応をご紹介します。

買い物に行ったとき、欲しい物を買ってもらえないと泣き叫ぶなど、思い通りにならないことがあると、あたりかまわず大声で騒いでしまいます。どう対応したらよいのでしょうか？

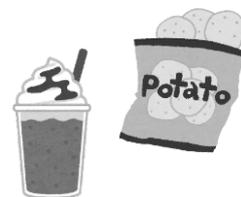
自分の感情をコントロールする力や、自分の思いを言葉で伝えることが未熟なため、大声で泣く、座り込むなどの激しい方法で気持ちを表現しようとしています。子どもが欲しい物の前で大声を出し騒ぎ始めると、周囲の目が気になり大人が根負けしてしまうこともあるでしょう。この時、言う通りに欲しい物を与えると“大声で騒ぐと要求が通る”と学習してしまうので注意が必要です。

【どんな対応をしたらいいのか？】

1 買い物に行く前に約束をする

買い物に出かける前に「今日は□□と△△を買います、○○（お菓子やジュース）は買いません」など約束をします。約束は途中で変更しないようにします。

お店では「次は△△を買うよ」とこれからの行動を伝えることも大切です。自分の要求を出さず、約束を守れたときには、しっかりとほめ、お子さんが理解したことを確認しましょう。



2 『取り合わない対応』をする（詳細は裏面をご覧ください）

大きな声を出しても要求は通らないことを理解させるために、大声で泣く、座り込むといった行動には大人は反応せず、お子さんが落ち着いてから対応するようにします。

3 その場を離れ場面を変える

泣き叫んでしまう場合にはその場から離れ、静かな場所に移動します。この時、大人は声をかけることや叱ることはせず、静かに落ち着いて対応することが大切です。

『取り合わない対応』とは？

行動を減らすための方法です。無視するのではなく、子どもの行動に対して
反応しないようにし、待つことをします。

大声で騒ぐ、その場に座り込むなどの行動が始まったら…



無関心な表情（怒ったり、顔をしかめたりせず、なるべくフラットな表情）をする。反応しない。

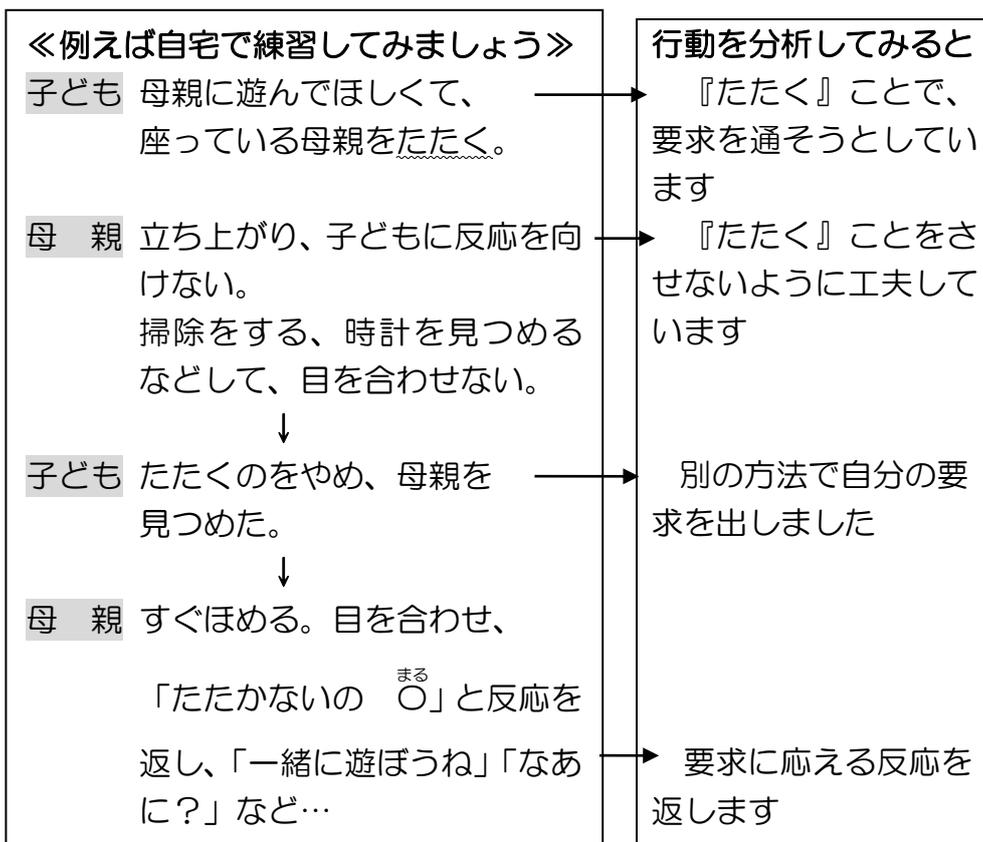
- ① 怒っているそぶりはお子さんに見せないようにする。
- ② 視線を合わせないようにする。
- ③ 何か別のことをしているそぶりをする。

（時計を見つめる、掲示物を見ているふりをする…）素知らぬ顔で子どもを観察します。



行動をやめたら見のがさず、すぐにほめます。「泣くの終わってえらい」、座りこんでいたら「～ちゃん 立てた^{まる}〇だね」…)

この対応をはじめると、お子さんは自分に注意を向けさせようと、一時的にその行動をエスカレートさせる場合がありますので、根気強く取り組む必要があります。



“取り合わない対応”のポイント

行動の変化の後、すぐに子どもの好きな方法で『ほめる』ことが大切です。

行動が変化したことを認め、ほめることを積み重ねることが、“取り合わない対応”の大きな効果につながります。